

## 平成18年度 事業報告

政府では我が国の景気は消費に弱さが見られるものの、国内民需と外需がバランス良く改善する中、息の長い経済回復を続けていると発表しています。しかしながら、企業規模別、地域別では回復の動きにはばらつきが見られ、全国的には景気回復の実感が乏しいといわれています。しかしながら、中部圏ではモノ作りを中心とした景気回復が続いていると思われれます。

こうした中、当地に取りましては「愛・地球博」のリバウンドを懸念しておりましたが、宿泊客数は前年度と比べ約4%増の約112万人となりました。当協会と致しましては、中部圏の景気回復と行政並びに関係諸団体をはじめ各協会員のご努力がその要因と考えております。

当協会では、限られた予算の枠組みの中で「宿泊客130万人 日帰り客70万人 誘致に向け団結してがんばろう」をメインスローガンに掲げ効果的な事業の実施に努めてまいりました。

一般消費者を対象に「旅フェア2006」への出展や東京・大阪・名古屋等における観光PRを実施致しました。また、口コミによる観光宣伝などを期待して下呂市と共同で「下呂温泉ふるさと観光大使」を創設致しました。

一方、当地の送客状況を踏まえ、東京と名古屋において「観光客誘致会議」を開催致しました。平成18年度の事業計画では大阪での誘致会議も予定しておりましたが、諸般の事情を鑑み「第19回車上セミナー」と併せて観光大使の委嘱状授与式を実施するなど、現状に即応し事業の能率化を図ることができました。

また、「ぎふデスティネーションキャンペーン」の実施を踏まえ、県観光連盟では仙台・名古屋・大阪・東京・博多・広島において「誘致会議」を開催。当協会からも積極的に参加協力致しました。

インバウンド事業としては、政府の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」を受けて、諸外国からの視察旅行などの受け入れや国土交通省からの調査事業の委託を受けるなど外国人観光客の誘致にも積極的に事業を進めてまいりました。

温泉地の賑わいを創出すべく、「いでゆ朝市」「いでゆ夜市」や「キャンドルイルミネーション」なども継続して実施し、「下呂温泉まつり」「花火ミュージカル」等をはじめ当地でのイベント事業についても積極的に協力致しました。

魅力ある温泉地を目指して、「花木の植栽や草取り」を継続して実施し、「飛騨川クリーン大作戦」では下呂地区区長会など関係諸団体のご協力の元、中山七里まで清掃範囲を広げるなど中長期的な展望に立った環境整備、まちづくりを進めてまいりました。

最後になりましたが、こうして事業を遂行できましたのも、協会員の皆様方をはじめ、行政、関係団体などのご協力の賜と感謝申し上げます。事業報告と致します。